

移動等円滑化取組報告書（軌道車両）

（令和3年度）

住 所 長崎県長崎市大橋町4番5号
 事業者名 長崎電気軌道株式会社
 代表者名 代表取締役社長 中島典明

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第9条の5の規定に基づき、次のとおり報告します。

I 前年度の移動等円滑化取組計画書の内容の実施状況

(1) 移動等円滑化に関する措置の実施状況

① 軌道車両を公共交通移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置

| 対象となる 軌道車両 | 現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容) | 前年度の実施状況 |
|---------------|-------------------------------|----------|
| バリアフリー対応車両の導入 | ・バリアフリー対応車両を2021年度までに1編成導入する。 | ・1両導入 |

② 軌道車両を使用した役務の提供の方法に関し法第八条第二項及び第三項の主務省令で定める基準を遵守するために必要な措置

| 対 策 | 現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容) | 前年度の実施状況 |
|-----------|-----------------------------------|----------------|
| 現状の把握と検討 | ・ソフト基準を満たしていない状況を整理して対応を検討する。 | ・ソフト基準は満たしている。 |
| 障害者に関する教育 | ・運輸部門を対象とする研修会において、障害者対応に関する研修を行う | ・計画通り実施 |

③ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる乗降についての介助、旅客施設における誘導その他の支援

| 対 策 | 現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容) | 前年度の実施状況 |
|---------------|--|-------------------------------|
| バリアフリー対応車両の運行 | ・バリアフリー対応車両の数が限られているため、高齢者や障害者の利用状況に応じて運行計画を継続的に見直す。 | ・バリアフリー対応車両の1両増加より固定ダイヤの本数を増加 |

④ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる情報の提供

| 対 策 | 現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容) | 前年度の実施状況 |
|-------------------------|---|-----------------------------|
| 運行状況の提供 | ・停留場サイネージ（液晶モニター）の設置範囲を拡大し、ホームページ上だけでなく停留場においてもバリアフリー対応車両の運行情報を提供する（2021年度までに12停留場14基）。 | ・新たに2停留場2基のサイネージ（液晶モニター）を設置 |
| 障害者料金の明示 | ・停留場や車内で障害者料金の明示を検討する。 | ・明示を実施 |
| インターネットを利用した車両位置情報発信の充実 | ・インターネットを利用した位置情報サービス発信の充実化を検討する。 | ・令和4年度導入を確定 |

⑤ 移動等円滑化を図るために必要な教育訓練

| 対 策 | 現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容) | 前年度の実施状況 |
|-----------|------------------------------------|----------|
| 障害者に関する教育 | ・運輸部門を対象とする研修会において、障害者対応に関する研修を行う。 | ・計画通り実施 |

⑥ 高齢者、障害者等が高齢者障害者等用施設等を円滑に利用するために必要となる適正な配慮についての軌道車両の利用者に対する広報活動及び啓発活動

| 対 策 | 現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容) | 前年度の実施状況 |
|------------------|------------------------------|--------------|
| 車内優先席案内の周知方法の見直し | ・既存の掲出ステッカーも含めた周知方法の見直しを行う。 | ・見直したうえで現状維持 |

(2) 移動等円滑化の促進を達成するために(1)と併せて講ずべき措置の実施状況

| |
|---------------------------------|
| ・促進のため電車事業部が事業実施や進捗状況について確認を行う。 |
|---------------------------------|

(3) 報告書の公表方法

| |
|--------------|
| ・自社ホームページへ掲載 |
|--------------|

(4) その他

| |
|------|
| 該当なし |
|------|

II 軌道車両の移動等円滑化の達成状況

(令和4年3月31日現在)

| 軌道の種類 | 事業の用に供している編成数 | 公共交通移動等円滑化基準省令に適合した編成数 | 車椅子スペースの数が公共交通移動等円滑化基準省令の規定を満たしている編成数 | 便所のある編成数 | 便所のある編成のうち車椅子対応型便所のある編成数 | 案内設備のある編成数 | 車両間転落防止設備のある編成数 |
|---------|---------------|------------------------|---------------------------------------|----------|--------------------------|------------|-----------------|
| 普通（その他） | 71編成 (71両) | 7編成 (7両) | 7編成 | 0編成 | 0編成 | 7編成 | 6編成 |
| (合計) | 71編成 (71両) | 7編成 (7両) | 7編成 | 0編成 | 編成 | 7編成 | 6編成 |

III 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行規則第6条の2で定める要件に関する事項

| | |
|--|---|
| (1) 過去3年度における1年度当たりの平均の輸送人員が1000万人以上である。 | ○ |
| (2) 過去3年度における1年度当たりの平均の輸送人員が100万人以上1000万人未満であり、かつ、以下のいずれかに該当する。 ①中小企業者でない。 ②大企業者である公共交通事業者等が自社の株式を50%以上所有しているか、又は自社に対し50%以上出資している中小企業者である。 | |

(第5号様式)

- 注1. 軌道の種類の欄には、普通（特急等車両）、普通（その他）、懸垂式、跨座式、案内軌条式、無軌条電車又は浮上式の別を記入すること。
- 公共交通移動等円滑化基準省令に適合した編成数の欄には、公共交通移動等円滑化基準省令の全ての基準に適合している編成の数を記入すること。
 - 車椅子スペースの数が公共交通移動等円滑化基準省令の規定を満たしている編成数の欄、便所のある編成のうち車椅子対応型便所のある編成数の欄及び案内設備のある編成数の欄には、それぞれ公共交通移動等円滑化基準省令第34条及び第35条において準用する公共交通移動等円滑化基準省令第32条第1項、第3項及び第5項の基準に適合している編成の数を記入すること。
 - 車両間転落防止設備のある編成数の欄には、公共交通移動等円滑化基準省令第34条及び第35条において準用する公共交通移動等円滑化基準省令第33条第1項の基準に適合している編成の数を記入すること。
 - IIIについては、該当する場合には右の欄に○印を記入すること。
 - 「中小企業者」とは、資本金の額が3億円以下又は従業員数が300人以下である民間事業者を指す。
 - 「大企業者」とは、中小企業者以外の民間事業者を指す。